

九 國語及び朝鮮語に於ける重箱讀と湯桶讀

國語の熟語構成法中最も種類が多く且つ最も自然に適つて居るのは「學校」「新聞」等の如く其の成分が何れも漢字音から成る場合と、「花見」「綿長」等の如く其の成分が何れも訓を以て成り立つて居る場合とである。然るに茲に右兩者の外に音訓を入れ交へて一箇の熟語を作る場合も少くない。例へば「重箱」「團子」等の如く上を音下を訓で讀む場合と、「湯桶」「小僧」等の如く上を訓下を音で讀む場合の如きはそれである。而して普通に「重箱」の形式を取るものを「重箱讀」、「湯桶」の形式を取るものを「湯桶讀」と稱して居る。尙ほ其等の例を挙げると「重箱讀」には

樂星 がくや

金鐐 きんりゅう

藝畫 びがく

作場 さくば

雜煮 ざし

蛇籠 じやかく

先手 せんて

唐辛 からからし

地均 ぢなう

天日 てんぴ

毒矢どくや

肉切にくぎれ

半焼はんやけ

棒讀ぼうよみ

紋附もんづき

慾目よくめ

の如きものがあり、「湯桶讀」には

隱藝かくしげい

梶棒かぢぼう

食料くひりょう

車座くるまざ

小姓こしやう

箕碁さきご

敷金しききん

助勢すけぜい

高臺たかだい

辻番つじばん

手本てほん

長座ながざ

庭下駄にげだ

火鉢ひばち

橋錢はしせん

焼印やきいん

の如きものがある。

西洋語が輸入せられてからは、國語と其等の語との種々の組合せが行はれるやうになつた。例へば「シャボン水」「テーブル掛」「ペン先」の如き「赤インキ」「蒸パン」「板ガラス」の如きこれである。これ亦一種の「重箱讀」「湯桶讀」と稱することが出来る。

朝鮮語の重箱讀と湯桶

朝鮮語には別に「重箱讀」「湯桶讀」の如き名稱は無いが、實際に於ては國語と同一の事實が行はれて居る。即ち「見様」(見本の義)「人事」(挨拶の義)又は「안녕」(内外の義)「요人」(鼻水の義)。

等の如く熟語の成分が、何れも漢字音たる場合と、純粹の朝鮮語たる場合とがある外に、音訓兩者を交へ用ひる事が頗る多く存して居る。例へば

강물 (江) 水

등불 (燈) 火

독섬 (蘇島) 地名

련못 (蓮) 池

병마개 (瓶) 栓

산새 (山) 鳥

식실 (色) 統

식갈 (食) 刀

잡소리 (雜) 言

향불 (香) 火

황소 (黃) 牛

약물 (藥) 水

윤달 (閏) 月

로담 (土) 墻

총알 (銃) 丸

の如きは上が漢字音下が訓で、國語の「重箱讀」に當るものといふを得べく、又

꽃병 (花) 瓶

가루약 (粉) 藥

달력 (曆) 月

뒤창 (窓) 後

두개 (頭) 二

물통 (水) 桶

모깃장 (蚊) 帳

밥상 (飯) 床

발병 (足) 病

술병 (酒) 瓶

신전 (靴) 履

새총 (鳥) 銃

짐차 (荷) 車

압문 (門) 前

안방 (房) 內

콩부 (大豆) 粥

팻줄 (小豆) 粥

の如きは上が訓下が漢字音で、國語の「湯桶讀」に當るものといふことが出来る。又近來朝鮮語中に多くの國語が移入せられた結果、구두안 (紐靴)、리상 (樣爭) 等の如く兩

一〇 朝鮮語で學習せられた外國語

語の混成熟語が生じた例も少くない。